

## 第 40 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会（部会③）

# 開催記録

### 1 開催概要

- 日 時：令和 6 年 2 月 7 日（水）10：00 ～ 12：00
- 場 所：JR 東日本現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・ 谷川 章雄氏（早稲田大学 人間科学学術院 教授）
委員	・ 老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・ 小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・ 古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー）
オブザーバー	・ 文化庁文化財第二課 史跡部門 ・ 東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・ 港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・ 港区 街づくり支援部 ・ JR 東日本コンサルタンツ株式会社 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部
事務局 東日本旅客鉄道(株)	・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部
サポート	・ パシフィックコンサルタンツ株式会社

#### ■ 当日配布資料

##### 1) 議事録確認

- ・ 次第
- ・ 資料 1：第 39 回委員会（1/10）部会②議事録案
- ・ 資料 2：第 39 回委員会（1/10）部会③議事録案

##### 2) 部会③

- ・ 次第
- ・ 資料 1～9：埋蔵文化財への対応検討について

## 2 議事要旨

---

### 2.1 議事録確認

#### (1) 開会

- 第 40 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。(事務局)

#### (2) 議事録確認

##### 1) 第 39 回委員会 (1/10) 部会②の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

##### 2) 第 39 回委員会 (1/10) 部会③の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

### 2.2 部会③

#### (1) 開会

- 第 40 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会③を開会する。(事務局)

#### (2) 埋蔵文化財への対応検討について

- 資料について説明する。(事務局)  
＜空港アクセス線と高輪築堤・雑魚場架道橋について、以下の点を資料を用いて説明＞
  - 現地保存の可否および遺構に対する影響低減策を検討した。
  - 遺構に対して完全に影響のないよう回避することはいずれの案でも難しい。
  - 今回、変更計画として、最大限遺構への影響が低減できる案を検討した。
  - 雑魚場架道橋は、移設せずに現行のまま継続使用することができるだろうとの結果となった。
  - 雑魚場架道橋部では、桁の移動等のため、既存の橋台にアンカー打設を行う必要がある。アンカー打設は、打設延長を削減し遺構への影響低減を図った。
- 現状で試掘が完全に完了していない段階と認識しつつ、全体の様相が分かってきた。これまで現地保存を依頼して可否を検討してもらってきたが、難しいならば低減方策を検討してもらいたいということである。(委員長)
- 資料 6 が現実的な案として進めていると理解してよいか。(小野田委員)  
← その通りである。この案が一番影響を低減するものとする。(事務局)
- 第 5 橋梁の橋台が残っているかどうかを証明することが重要である。変更計画案で進め

る場合に橋台に与える影響を確認したい。(小野田委員)

← 資料7に記載している。(事務局)

→ 第5橋梁の橋台が残っているかどうか確認できるのか。(小野田委員)

← 図面と現状観察から判断する。(事務局)

→ 過去の図面をトレースしていると思うが、第5橋梁橋台と思しきものに影響がなければ、まずは問題ないと思われる。(小野田委員)

●第5橋梁橋台は、一部石積み撤去して再構築したのではないかとと思われる部分があるので、そのあたりも確認したい。(小野田委員)

●現地保存の可否がかなり難しいことは、説明で理解した。敢えて言うと浜松町あたりから分岐することは可能だったのではないかと思えるが、その検討段階では高輪築堤の存在が知られていなかったもので、現状での対応が困難であることは理解した。もっと早い段階で築堤の存在が分かっていたらよい方法があったかと思うが、現地保存が難しいので低減策をどうするか考えざるを得ないと思う。(委員長)

← それでよい。(委員一同)

●次の段階として、部分的に壊さざるを得ない箇所は記録保存となる。想定される遺構が完全に詰められていない。橋台は後背部の掘削調査を行えば色々と明らかになるので一刻も早く行ってもらい判断したい。(委員長)

●一方でこれまでの試掘調査の結果を評価しなければならない。薩摩台場はどのくらいの深さまで盛土があったのか、それが工事範囲にどれくらい抵触するのかの整理が必要である。試掘調査の分析が途中ということなので、早くデータを揃えて平面図、横断図を作り、発掘調査を行う範囲を正確に決めて調査計画を作る必要がある。(委員長)

●これらの調査、整理と並行して低減策自体の評価も議論しなければならないので、次回委員会までに第5橋梁の橋台の確認、記録保存計画を部分的でもよいので成果を積み上げられるように報告してもらい、低減策の評価を行っていききたい。(委員長)

●資料3の平面図が粗いので解像度を上げてもらいたい。(東京都)

← 平面図の解像度の向上は努力する。(事務局)

●薩摩台場の想定深さがT.P.-5.0mとする根拠は何か。(東京都)

← 断面図の表記は深い気がする。T.P.-2.0mくらいだと想定するので再確認する。(事務局)

→ 港区とも調整して作成してもらいたい。(東京都)

●今後は細かい議論になる。第三者にも説明しなければならない。資料自体は、遺構と工事範囲の関係が詳細にわかる形できちんと作ってもらいたい。(委員長)

●調査は早急に実施し、記録保存計画も指導いただきながら詳細を詰めていききたい。遺構への影響を低減するために、鉄道安全確保を遵守する中で技術的な検討をぎりぎりのところまで詰めてきた結果と考えている。工期も厳しい状況にあり、着実に進められるよ

う今後とも検討、判断をお願いしたい。(JR)

### (3) その他

＜部会①・部会②・部会③終了後＞

- 最後に文化財行政からコメントをもらう。
  - ← 部会③について、雑魚場架道橋は史跡指定された部分と同等の重要性があると考えられるので文化庁も討議に参加していきたい。(文化庁)
  - ← 4-2 街区が時間的な制約での結論となったことは忸怩たる思いで受け止めているが、一方でこのエリアの埋蔵文化財の様相もわかってきた。いち早く遺跡の存在を周知できるようよう港区と進めていきたい。(東京都)
  - ← 引き続き、小さなことでも連絡を密に取らせてもらい進めていきたい。(港区)

### (4) 閉会

- 11月、12月の委員会報告を2月9日(金)に各HPに掲載する。(事務局)
- 次回委員会は3月6日(水)10時00分より、会場はTKP品川での開催を予定する。  
本日はこれで閉会とする。(事務局)

## 3 議事録

### 3.1 議事録確認

#### (1) 開会

- (事務局) 第40回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。
- ・ 挨拶
  - ・ 資料確認
  - ・ オンラインの案内
  - ・ 次第説明

#### (2) 議事録確認

- (事務局) 2つの議事録について修正等の指摘はあるか。修正等があれば委員会終了までに指摘をいただきたい。
- (事務局) 意見がなければ、議事録確認を終了する。

### 3.2 部会③

#### (1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

#### (2) 埋蔵文化財への対応検討について

- (事務局) 資料について説明する。計画に対して、遺構の現地保存の可否および現地保存ができない場合の遺構に対する影響低減策を検討した。検討結果では、遺構に対して完全に影響のないよう回避した計画とすることはいずれの案でも現実的には難しいという結果となった。今回、変更計画として、縦断線形の変更や施工上の工夫により、最大限遺構への影響が低減できる案を検討した。雑魚場架道橋については、現在位置で空頭を確保するために掘下げするという工夫をすることにより、移設せずに現行のまま継続使用することができるだろうとの結果となった。雑魚場架道橋部では、線路切換のための桁移動、桁新設のため、既存の橋台にアンカー打設を行う必要がある。アンカー打設については、設計上の工夫により、打設の延長を削減した。
- (委員長) 現状では試掘が完全に完了していない段階であることは認識しつつ、全体の様相が分かってきたところである。これまで現地保存をお願いしてきて、可否を検討してもらってきた。それが難しいならば影響の

- 低減方策を検討してもらいたいということである。
- (委員長) 質問、意見はあるか。
- (小野田委員) 今回は資料 6 にある案が、現実的な案として進めていると理解してよいか。
- (事務局) その通りであり、この案が一番影響を低減すると考えているものである。
- (小野田委員) 第 5 橋梁の橋台が残っているかどうかを証明することが重要である。変更計画案で進むときに橋台にどういう影響がするのかを確認したい。
- (事務局) 資料 7 に記載している。
- (小野田委員) 第 5 橋梁の橋台が残っているかどうかを確認することができるのか。
- (事務局) 図面と現状から判断する。
- (小野田委員) 図面をトレースしているものと思われるが、第 5 橋梁橋台と思しきものに影響がないのであれば、まずは問題がないのかなと思われる。
- (小野田委員) 第 5 橋梁橋台部は、一部石積みを撤去して再構築したのではないかとと思われる部分があるので、そのあたりも確認していきたい。
- (委員長) 現地保存の可否については、かなり難しいということは説明で理解した。敢えて言うと浜松町あたりから分岐することは可能だったのではないかと、思える。ただしその段階では高輪築堤の存在が知られていないことであったので、現状での対応は困難であることは理解した。もっと早い段階で築堤の存在が分かっていたら、良い方法があったかと思う。いずれにしても現地保存が難しいということで、低減策をどうするかを考えざるを得ないと思う。委員の皆さんはどう考えるか。
- (委員一同) それでよい。
- (委員長) 次の段階として、低減したとしても部分的に壊さざるを得ない箇所は記録保存となるが、想定される遺構が完全に詰められていない橋台については後背部の掘削調査を行えば色々と明らかになるので、一刻も早く行ってもらって判断をしていきたい。一方で、試掘調査の結果について評価をしていかなければならない。薩摩台場はどのくらいの深さまで盛土があったのか、それが工事範囲とどう抵触してくるのか、という整理が必要である。試掘結果の分析が途中であるということなので、早くデータを揃えてもらって、平面図・横断図を作り、発掘調査を行わなければならない範囲を正確に決めて、調査計画を作っていかなければならない。これに並行して低減策自体の評価も議論していかなければならない。これらを 2 本立てとして、進めていかなければならない。次回の検討委員会までに、部分的にでもいいのでわかったところから積み上げられるように報告をしてもらいたい。第 5 橋梁の橋台の確認、記録保存計画、これと並行しての低減策の評価となる。
- (東京都) 資料 3 の平面図が粗いので解像度を上げてもらいたい。C-C 縦断面略図で薩摩台場の想定深さが T.P.-5.0m までいっているが根拠があるのか。

- (事務局) 平面図の解像度は容量の関係もあり難しいところもあるが努力する。断面図の深さについては深い気がする。T.P.-2.0m くらいだと想定される。確認する。
- (東京都)  
(委員長) 港区とも調整して作成してもらいたい。  
これからは細かい議論になってくる。第三者にも説明をしなければならない。資料自体はきちんとしたものを作り、遺構と工事範囲の関係が詳細にわかるような形で作ってもらいたい。
- (JR) 議論に感謝する。調査も早急に実施して明らかになるように進めていきたい。記録保存も詳細に詰めて、ご指導いただきながら検討を進めていきたい。今回、遺構への影響を低減するために技術的な検討を行った。ギリギリのところまで詰めてきた結果と考えている。鉄道安全確保をしっかりと守っていく中での検討である。完璧な保存とはならなかったが、結果についてご了承いただきたい。工期も厳しくなっている状況であるので、着実に進められるように今後とも検討、判断をお願いしたい。
- (委員長) 他に何かなければ、次に進める。

### (3) その他

- (委員長) その他何かあるか。  
(委員長) 特になければ部会③を閉会する。

#### <部会①・部会②・部会③終了後>

- (委員長) 最後に文化財行政からコメントをもらう。
- (文化庁) 部会③について、雑魚場架道橋は史跡指定された部分と同等の重要性があると考えられる。文化庁も討議に参加していきたい。
- (東京都) 4-2 街区の建物計画については時間的な制約での結論となったことは、忸怩たる思いで受け止めている。一方でこのエリアの埋蔵文化財の様相もわかってきた。いち早く遺跡の存在を周知できるよう、港区と進めていきたい。
- (港区) 引き続き、小さなことでも連絡を密に取らせてもらい進めていきたい。

### (4) 閉会

- (事務局) 本日回収する資料は机上に残してお帰りいただきたい。11 月、12 月の委員会報告を2月9日(金)に HP に掲載する。次回の定例委員会は、3 月 6 日(水) 10 時 00 分から、会場は品川 TKP を予定する。本日はお忙しい中貴重なご意見をありがとうございました。閉会とする。

以上